



ONTAP コマンドライン インターフェイスの使用 ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

ONTAPコマンドライン インターフェイスの使用	1
ONTAPコマンドラインインターフェイスの使用	1
CLIコマンド用シェルの概要（クラスタ管理者のみ）	1
CLIコマンドディレクトリノイドウハウハウ	3
CLIで値を指定する際のルール	4
コマンド履歴の表示方法とコマンドの再実行方法	5
CLIコマンドを編集するためのキーボードショートカット	5
管理権限レベルの使用	7
CLIでの権限レベルの設定	8
CLIでの表示環境の設定	8
クエリ演算子の使用方法	9
拡張クエリの使用方法	10
フィールドを使用したshowコマンド出力のカスタマイズ方法	11
位置指定パラメータについて	12
ONTAPマニュアルページへのアクセス方法	14

ONTAP コマンドライン インターフェイスの使用

ONTAP コマンドライン インターフェイスの使用

ONTAP コマンドライン インターフェイス (CLI) は、管理インターフェイスのコマンドベースのビューを提供します。ストレージ・システム・プロンプトでコマンドを入力すると、コマンド結果がテキストで表示されます。

CLI コマンドプロンプトは、のように表示され `cluster_name::>` ます。

権限レベル (コマンドのパラメータ `set`) をに `advanced` 設定する `-privilege` と、次のように、プロンプトにアスタリスク (*) が含まれます。

```
cluster_name::*>
```

CLI コマンド用シェルの概要 (クラスタ管理者のみ)

クラスタには、CLI コマンド用の異なる 3 つのシェルとして、`_clustershell_`、`_nodeshell_`、`_systemshell_` があります。シェルは目的が異なり、それぞれに異なるコマンドセットがあります。

- クラスタシェルは、クラスタにログインすると自動的に開始されるネイティブシェルです。

クラスタの設定と管理に必要なコマンドがすべて含まれています。クラスタシェルの CLI ヘルプ (クラスタシェルプロンプトでと入力するとトリガーされる ?) には、使用可能なクラスタシェルコマンドが表示されます。クラスタシェルのコマンドは `man command_name`、指定したクラスタシェルコマンドのマニュアルページを表示します。

- ノードシェルは、ノードレベルでのみ有効になるコマンド用の特別なシェルです。

ノードシェルには、コマンドを使用してアクセスでき `system node run` ます。

ノードシェルの CLI ヘルプ (または `help` でトリガー) に `?` は、使用可能なノードシェルコマンドが表示されます。ノードシェルのコマンドは `man command_name`、指定したノードシェルコマンドのマニュアルページを表示します。

よく使用されるノードシェルのコマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリングまたはエイリアスされ、クラスタシェルからも実行できます。

- システムシェルは、診断とトラブルシューティングの目的でのみ使用される下位レベルのシェルです。

システムシェルおよび関連する「タグ」アカウントは、下位レベルの診断用です。アクセスには `diagnostic` 権限レベルが必要で、テクニカルサポートがトラブルシューティングタスクを実行するためにのみ予約されています。

クラスタシェルでのノードシェルのコマンドおよびオプションへのアクセス

ノードシェルのコマンドとオプションには、ノードシェルからアクセスできます。

```
system node run -node nodename
```

よく使用されるノードシェルのコマンドとオプションの多くは、クラスタシェルにトンネリングまたはエイリアスされ、クラスタシェルからも実行できます。

クラスタシェルでサポートされているノードシェルオプションには、コマンドを使用してアクセスでき `vserver options clustershell` ます。これらのオプションを表示するには、次のいずれかを実行します。

- を使用してクラスタシェルCLIを照会する `vserver options -vserver nodename_or_clustername -option-name ?`
- を使用してクラスタシェルCLIのマニュアルページにアクセスします `vserver options. man vserver options`

クラスタシェルでノードシェルまたはレガシーのコマンドまたはオプションを入力し、そのコマンドまたはオプションに相当するクラスタシェルコマンドがある場合は、そのクラスタシェルコマンドを使用するようにONTAPから通知されます。

クラスタシェルでノードシェルまたはレガシーのコマンドまたはオプションを入力した場合、そのコマンドまたはオプションについて「not supported」ステータスが ONTAP から通知されます。

使用可能なノードシェルコマンドを表示します。

ノードシェルからCLIヘルプを使用すると、使用可能なノードシェルコマンドのリストを取得できます。

手順

1. ノードシェルにアクセスするには、クラスタシェルのシステムプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
system node run -node {nodename|local}
```

`local` は、クラスタへのアクセスに使用したノードです。



この `system node run` コマンドには、エイリアスコマンド、が `run` あります。

2. 使用可能なノードシェルコマンドの一覧を表示するには、ノードシェルで次のコマンドを入力します。

```
[commandname] help
```

`_commandname_` は、可用性を表示するコマンドの名前です。を指定しないと、`_commandname_` 使用可能なすべてのノードシェルコマンドが表示されます。

クラスタシェルCLIに戻るには、Ctrl+Dを入力するか入力し `exit` ます。

利用可能なノードシェルコマンドを表示する例

次の例は、node2という名前のノードのノードシェルにアクセスし、ノードシェルコマンドの情報を表示します `environment`。

```
cluster1::> system node run -node node2
Type 'exit' or 'Ctrl-D' to return to the CLI

node2> environment help
Usage: environment status |
      [status] [shelf [<adapter>[.<shelf-number>]]] |
      [status] [shelf_log] |
      [status] [shelf_stats] |
      [status] [shelf_power_status] |
      [status] [chassis [all | list-sensors | Temperature | PSU 1 |
PSU 2 | Voltage | SYS FAN | NVRAM6-temperature-3 | NVRAM6-battery-3]]
```

CLIコマンドディレクトリノイドウハウホウ

CLIのコマンドは、コマンドディレクトリごとに階層化されています。階層内でコマンドを実行するには、完全なコマンドパスを入力するか、ディレクトリ構造内を移動します。

CLIを使用している場合は、プロンプトにディレクトリの名前を入力してEnterキーを押すと、コマンドディレクトリにアクセスできます。その後、ディレクトリ名がプロンプトテキストに表示され、適切なコマンドディレクトリを操作していることが示されます。コマンド階層の下位に移動するには、コマンドサブディレクトリの名前を入力し、Enterキーを押します。その後、サブディレクトリ名がプロンプトテキストに含まれ、コンテキストがそのサブディレクトリに移動します。

コマンド全体を入力すると、複数のコマンドディレクトリを移動できます。たとえば、ディスクドライブに関する情報を表示するには、プロンプトでコマンドを入力し`storage disk show`ます。次の例に示すように、一度に1つのコマンドディレクトリに移動してコマンドを実行することもできます。

```
cluster1::> storage
cluster1::storage> disk
cluster1::storage disk> show
```

コマンドに最小文字数だけを入力することで、コマンドを現在のディレクトリに一意にすることができます。たとえば、前の例のコマンドを省略するには、と入力し`st d sh`ます。Tabキーを使用して、省略されたコマンドを展開したり、デフォルトのパラメータ値を含むコマンドのパラメータを表示したりすることもできます。

コマンドを使用するとコマンド階層の最上位に移動でき、コマンドまたは...`コマンドを使用するとコマンド階層の1つ上のレベルに移動`up`できます`top`。



CLIでアスタリスク (*) を付けたコマンドおよびコマンドオプションは、advanced 権限レベル以上でのみ実行できます。

CLIで値を指定する際のルール

ほとんどのコマンドには、1つ以上の必須またはオプションのパラメータが含まれています。多くのパラメータでは、値を指定する必要があります。CLIで値を指定するには、いくつかのルールがあります。

- 値には、数値、ブール指定子、事前に定義された値の列挙リストからの選択、またはテキスト文字列を指定できます。

一部のパラメータでは、2つ以上の値をカンマで区切って指定できます。値をカンマで区切って指定したリストは、引用符（"）で囲む必要はありません。テキスト、スペース、またはクエリ文字（クエリを意図していない場合、または小なり記号または大なり記号で始まるテキスト）を指定する場合は、必ずエンティティを引用符で囲む必要があります。

- CLIは疑問符（" ? "）を解釈します。をコマンドとして使用し、特定のコマンドのヘルプ情報を表示します。
- コマンド名、パラメータ、特定の値などのCLIに入力するテキストの一部では、大文字と小文字が区別されません。

たとえば、コマンドのパラメータ値を入力した場合、`vserver cifs`大文字と小文字の区別は無視されます。ただし、ノード、Storage Virtual Machine (SVM)、アグリゲート、ボリューム、論理インターフェイスの名前などのほとんどのパラメータ値では大文字と小文字が区別されます。

- 文字列またはリストをとるパラメータの値をクリアする場合は、空の一連の引用符（" "）またはダッシュ（"-")を指定します。
- ハッシュ記号("#")は、シャープ記号とも呼ばれ、コマンドライン入力のコメントを示します。使用する場合は、コマンドラインの最後のパラメータの後に表示されます。

CLIは行の末尾と"#"の間のテキストを無視します。

次の例では、テキストコメント付きでSVMが作成されます。次に、SVMが変更されてコメントが削除されます。

```
cluster1::> vsserver create -vserver vs0 -subtype default -rootvolume
root_vs0
-aggregate aggr1 -rootvolume-security-style unix -language C.UTF-8 -is
-repository false -ipspace ipspaceA -comment "My SVM"
cluster1::> vsserver modify -vserver vs0 -comment ""
```

次の例では、"#"記号を使用したコマンドラインコメントは、コマンドの動作を示しています。

```
cluster1::> security login create -vserver vs0 -user-or-group-name new-
admin
-application ssh -authmethod password #This command creates a new user
account
```

コマンド履歴の表示方法とコマンドの再実行方法

各CLIセッションには、実行されたすべてのコマンドの履歴が保持されます。現在のセッションのコマンド履歴を表示できます。コマンドを再実行することもできます。

コマンド履歴を表示するには、コマンドを使用し `history` ます。

コマンドを再発行するには、次のいずれかの引数を指定してコマンドを使用し `redo` ます。

- 前のコマンドの一部に一致する文字列

たとえば、実行したコマンドがのみの `volume show`` 場合は `volume`、コマンドを使用してコマンドを再実行できます `redo volume`。

- コマンドで表示された前のコマンドの数値ID。 `history`

たとえば、コマンドを使用すると、履歴リストの4番目のコマンドを再発行できます `redo 4`。

- 履歴リストの末尾からの負のオフセット

たとえば、コマンドを使用して、2つ前に実行したコマンドを再発行できます `redo -2`。

たとえば、コマンド履歴の最後から3番目のコマンドをやり直すには、次のコマンドを入力します。

```
cluster1::> redo -3
```

CLIコマンドを編集するためのキーボードショートカット

現在のコマンドプロンプトのコマンドは、アクティブなコマンドです。キーボードショートカットを使用して、アクティブなコマンドをすばやく編集できます。UNIX `tsch` シェルや Emacs エディタと同様のショートカットを使用できます。

次の表に、CLI コマンドを編集するためのキーボードショートカットを示します。「Ctrl +」は、Ctrl キーを押したまま、指定した文字を入力することを示します。「Esc-」は、Esc キーを押して離し、そのあとに指定した文字を入力することを示します。

状況	使用するキーボードショートカット
カーソルを 1 文字左に移動します	Ctrl+B キーを押下
戻る矢印	カーソルを 1 文字右に移動します
Ctrl+F	右矢印
カーソルを 1 単語分左に移動します	ESC-B

状況	使用するキーボードショートカット
カーソルを 1 単語分右に移動します	ESC-F
カーソルを行頭に移動します	Ctrl+A
カーソルを行末へ移動します	Ctrl+E
行の先頭からカーソルまでコマンドラインの内容を削除し、カットバッファに保存します。切り取りバッファは '一部のプログラムでは <i>clipboard</i> と呼ばれるのと同様に '一時的なメモリのように機能します	Ctrl+U キーを押下
カーソルから行末までの入力内容を切り取ってバッファに保存する	Ctrl+K キーを押下
カーソルから次の単語の末尾までを切り取ってバッファに保存する	ESC-D
カーソルの前の単語を削除し、切り取りバッファに保存します。	Ctrl+W キーを押下
切り取りバッファの内容を取得し、カーソルのコマンドラインに挿入します	Ctrl+Y キーを押下
カーソルの前の文字を削除します	Ctrl+H
バックスペース	カーソル位置の文字を削除します
Ctrl+D を使用します	行をクリアします
Ctrl+C キーを押します	画面をクリアします
Ctrl+L キーを押下	コマンドラインの現在の内容を、履歴リストの前のエントリに置き換えます。 このキーボードショートカットを押すたびに履歴カーソルが 1 つ前のエントリに移動します。
Ctrl+P キーを押下	ESC-P
上矢印	コマンドラインの現在の内容を、履歴リストの次のエントリに置き換えます。このキーボードショートカットを押すたびに履歴カーソルが次のエントリに移動します。

状況	使用するキーボードショートカット
Ctrl+N キーを押下	ESC-N
下矢印	部分的に入力されたコマンドを展開するか、現在の編集位置から有効な入力のリストを表示します
タブ	Ctrl+I
状況に応じたヘルプを表示します	?
疑問符("?"文字の特殊なマッピングをエスケープし ず?) character. For instance, to enter a question mark into a command's argument, press Esc and then the "。	ESC - ?
TTY 出力を開始します	Ctrl+Q キーを押下
TTY 出力を停止します	Ctrl+S

管理権限レベルの使用

ONTAP のコマンドとパラメータは、*admin*、*advanced*、*ddiagnostic* の 3 つの権限レベルで定義されます。権限レベルは、タスクの実行に必要なスキルレベルを反映しています。

- * admin *

このレベルではほとんどのコマンドとパラメータを使用できます。これらは、一般的なタスクまたはルーチンタスクに使用されます。

- * 詳細 *

このレベルのコマンドとパラメータは高度な知識を必要とし、あまり使用されません。不適切に使用すると、原因の問題につながる可能性があります。

高度なコマンドまたはパラメータを使用する場合は、必ずサポート担当者のアドバイスを受けてください。

- * 診断 *

診断コマンドおよびパラメータは、システム停止の原因になる可能性がありますこれらのコマンドは、サポート担当者が問題の診断と修正を行う場合にのみ使用します。

CLIでの権限レベルの設定

CLIで権限レベルを設定するには、コマンドを使用し`set`ます。権限レベルの設定変更は、現在のセッションにのみ適用され、新しいセッションでは適用されません。

手順

1. CLIで権限レベルを設定するには、コマンドにパラメータを指定して`-privilege`使用し`set`ます。

権限レベルの設定例

次の例では、権限レベルをadvancedに設定してからadminに設定します。

```
cluster1::> set -privilege advanced
Warning: These advanced commands are potentially dangerous; use them only
when directed to do so by NetApp personnel.
Do you wish to continue? (y or n): y
cluster1::*> set -privilege admin
```

CLIでの表示環境の設定

CLIセッションの表示環境を設定するには、コマンドと`rows`コマンドを使用し`set`ます。設定した環境は、現在のセッションにのみ適用されます。セッションをまたいで持続することはありません。

タスクの内容

次の CLI 表示環境を設定できます。

- コマンドセッションの権限レベル
- システムを停止させる可能性のあるコマンドについては確認を発行するかどうか
- コマンドですべてのフィールドを表示するかどうか show
- フィールド区切り文字として使用する文字
- データサイズを報告するときのデフォルトの単位
- インターフェイスが出力を一時的に停止する前に、現在の CLI セッションで画面に表示する行数

行数を指定しない場合、端末の実際の高さに基づいて自動的に調整されます。実際の高さが定義されていない場合、デフォルトの行数は24です。

- デフォルトのStorage Virtual Machine (SVM) またはノード
- エラーが発生した場合に続行中のコマンドを停止するかどうか

手順

1. CLIの表示環境を設定するには、コマンドを使用し`set`ます。

現在のCLIセッションで画面に表示する行数を設定するには、コマンドを使用することもできます rows。

詳細については、コマンドおよび `rows` コマンドのマニュアルページを参照して `set` ください。

CLIでの表示環境の設定の例

次の例では、フィールド区切り文字としてカンマを設定し、デフォルトのデータサイズ単位としてを設定し、行数を50に設定し `GB` ます。

```
cluster1::> set -showseparator "," -units GB
cluster1::> rows 50
```

クエリ演算子の使用方法

管理インターフェイスでは、クエリ、UNIX形式のパターンおよびワイルドカードがサポートされており、コマンドパラメータ引数の複数の値を照合できます。

次の表に、サポートされるクエリ演算子を示します。

運用者	説明
*	すべてのエントリに一致するワイルドカード。 たとえば、コマンドを `volume show -volume *tmp*` 実行すると、名前には含まれるすべてのボリュームのリストが表示され `tmp` ます。
なんだ?	NOT演算子。 一致しない値を示します。たとえば、は値と一致しないことを `vs0` 示します。 `!vs0`
OR演算子。 比較する2つの値を区切ります。たとえば、は `*vs0`	vs2*`vs0またはvs2のいずれかに一致します。複数のORステートメントを指定できます。たとえば、は `a`
b*	*c*エントリ、で始まるエントリ `b`、を含むエントリに `c` 一致します `a`。
..	範囲演算子。 たとえば、は `5..10` 任意の値のfromから `10` inclusiveに一致します `5`。

運用者	説明
<	less-than演算子。 たとえば、は、<20`より小さい任意の値に一致します `20。
>	greater-than演算子。 たとえば、は、>5`より大きい任意の値に一致します `5。
<=	less-than-or-equal-to演算子。 たとえば、は <=5`次の値以下の値に一致します `5。
>=	以上演算子。 たとえば、は、>=5`以上の任意の値に一致します `5。
{query}	拡張クエリ。 拡張クエリは、コマンド名に続けて、他のパラメータの前に最初の引数として指定する必要があります。 たとえば、コマンドは <code>volume modify {-volume *tmp*} -state offline</code> 、名前に文字列が含まれるすべてのボリュームをオフラインに設定し `tmp` ます。

クエリ文字をリテラルとして解析する場合は、`"*abc*"` 正しい結果が返されるように、文字を二重引用符（、、`"0..100"`、など `a|b`）で囲む必要があります "<10"。

特殊文字が解釈されないように、rawファイル名は二重引用符で囲む必要があります。これは、クラスタシェルで使用される特殊文字にも当てはまります。

1つのコマンドラインで複数のクエリ演算子を使用できます。たとえば、`volume show -size >1GB -percent-used <50 -vserver !vs1` 「vs1」という名前のStorage Virtual Machine (SVM) に含まれておらず、サイズが1GBを超え、使用率が50%未満のすべてのボリュームが表示されます。

関連情報

["CLIコマンドを編集するためのキーボードショートカット"](#)

拡張クエリの使用方法

拡張クエリを使用すると、指定した値を持つオブジェクトに対して処理を照合して実行できます。

拡張クエリを指定するには、中括弧（{}）で囲みます。拡張クエリは、コマンド名のあとの最初の引数として、他のパラメータの前に指定する必要があります。たとえば、名前に文字列が含まれるすべてのボリュームをオフラインに設定するには `tmp`、次の例のコマンドを実行します。

```
cluster1::> volume modify {-volume *tmp*} -state offline
```

一般に、拡張クエリはコマンドと `delete`` コマンドでのみ有効です。`modify` コマンドまたは `show` コマンドでは意味があり `create` ません。

クエリと変更操作の組み合わせは便利なツールです。ただし、正しく実装しないと混乱やエラーが発生する可能性があります。たとえば、(advanced権限) コマンドを使用して `system node image modify` ノードのデフォルトのソフトウェアイメージを自動的に設定すると、他のソフトウェアイメージがデフォルトにならないように設定されます。次の例のコマンドは、実質的にはnull操作です。

```
cluster1::*> system node image modify {-isdefault true} -isdefault false
```

このコマンドは、現在のデフォルトイメージをデフォルト以外のイメージとして設定し、新しいデフォルトイメージ（以前のデフォルト以外のイメージ）をデフォルト以外のイメージに設定します。これにより、元のデフォルト設定が保持されます。正しく処理を実行するには、次の例のようにコマンドを使用します。

```
cluster1::*> system node image modify {-iscurrent false} -isdefault true
```

フィールドを使用したshowコマンド出力のカスタマイズ方法

コマンドでパラメータを `show` 使用し `-instance` で詳細を表示すると、出力に時間がかかり、必要以上の情報が含まれることがあります。コマンドのパラメータ `show` を `fields` 使用すると、指定した情報のみを表示できます。

たとえば、を実行すると、`volume show -instance`` 複数の画面に情報が表示される可能性があります。を使用すると、（常に表示されるデフォルトのフィールドに加えて）指定したフィールドのみが含まれるように出力をカスタマイズできます。`volume show -fields fieldname[,fieldname...]`。を使用すると、コマンドの有効なフィールドを表示 show` できます。`-fields ?`。

次の例は、パラメータと `fields` パラメータの出力の違いを示して `instance` ます。

```

cluster1::> volume show -instance

                                Vserver Name: cluster1-1
                                Volume Name: vol0
                                Aggregate Name: aggr0
                                Volume Size: 348.3GB
                                Volume Data Set ID: -
                                Volume Master Data Set ID: -
                                Volume State: online
                                Volume Type: RW
                                Volume Style: flex
                                ...
                                Space Guarantee Style: volume
                                Space Guarantee in Effect: true
                                ...
Press <space> to page down, <return> for next line, or 'q' to quit...
...
cluster1::>

cluster1::> volume show -fields space-guarantee,space-guarantee-enabled

vserver  volume  space-guarantee  space-guarantee-enabled
-----  -
cluster1-1  vol0    volume           true
cluster1-2  vol0    volume           true
vs1        root_vol
           volume           true
vs2        new_vol
           volume           true
vs2        root_vol
           volume           true
...
cluster1::>

```

位置指定パラメータについて

ONTAP CLI の位置指定パラメータ機能を活用して、効率的にコマンドを入力することができます。あるコマンドの位置指定パラメータは、そのコマンドのヘルプで特定できません。

位置指定パラメータとは何ですか

- 位置指定パラメータは、値を指定する前にパラメータ名を指定する必要のないパラメータです。
- 位置指定パラメータは、コマンド入力に位置指定パラメータとそれ以外のパラメータを組み合わせて指定

できます。ただし、コマンド内の他の位置指定パラメータとの相対的な順序（の出力）に従っている必要があり `command_name ?` ます。

- 位置指定パラメータは、必須パラメータの場合とオプションパラメータの場合があります。
- あるパラメータが1つのコマンドでは位置指定パラメータで、別のコマンドでは位置指定パラメータでない場合もあります。



位置指定パラメータ機能をスクリプトで使用する場合は、特に位置指定パラメータがオプションパラメータである場合や、位置指定パラメータの前にオプションパラメータを指定する場合には推奨されません。

位置指定パラメータを特定する

位置指定パラメータは、コマンドの出力で特定できます `command_name ?`。位置指定パラメータは、次のいずれかの形式で、パラメータ名が角かっこで囲まれています。

- `[-parameter_name] parameter_value``に、必須の位置指定パラメータを示します。
- `[[[-parameter_name] parameter_value``に、オプションの位置指定パラメータを示します。

たとえば、次の出力では `command_name ?`、パラメータは該当するコマンドの位置指定パラメータです。

- `[-lif] <lif-name>`
- `[[[-lif] <lif-name>]`

ただし、次の出力では、パラメータは該当するコマンドの位置指定パラメータではありません。

- `-lif <lif-name>`
- `[-lif <lif-name>]`

位置指定パラメータの使用例

次の出力例では `volume create ?`、コマンドの3つのパラメータ（、、） `-aggregate``が位置指定パラメータであることが示されています `-volume -size``。

```

cluster1::> volume create ?
  -vserver <vserver name>           Vserver Name
  [-volume] <volume name>           Volume Name
  [-aggregate] <aggregate name>     Aggregate Name
  [[-size] {<integer>[KB|MB|GB|TB|PB]}] Volume Size
  [ -state {online|restricted|offline|force-online|force-offline|mixed} ]
                                         Volume State (default: online)
  [ -type {RW|DP|DC} ]               Volume Type (default: RW)
  [ -policy <text> ]                 Export Policy
  [ -user <user name> ]              User ID
  ...
  [ -space-guarantee|-s {none|volume} ] Space Guarantee Style (default:
volume)
  [ -percent-snapshot-space <percent> ] Space Reserved for Snapshot
Copies
  ...

```

次の例では volume create、位置指定パラメータ機能を使用せずにコマンドを指定しています。

```

cluster1::> volume create -vserver svml -volume vol1 -aggregate aggr1 -size 1g
-percent-snapshot-space 0

```

次の例では、位置指定パラメータ機能を使用して効率的にコマンドを入力しています。位置指定パラメータとそれ以外のパラメータの両方を使用してコマンドを実行 volume create`し、位置指定パラメータの値はパラメータ名なしで指定されます。位置指定パラメータは、の出力と同じ順序で指定されます `volume create`。つまり、の値はの値の前に指定され -aggregate、の値`-volume`の前に指定され`-size`ます。

```

cluster1::> volume create vol2 aggr1 1g -vserver svml -percent-snapshot-space 0

```

```

cluster1::> volume create -vserver svml vol3 -snapshot-policy default aggr1
-nvfail off 1g -space-guarantee none

```

ONTAP マニュアルページへのアクセス方法

ONTAPのマニュアル（マニュアル）ページでは、ONTAP CLIコマンドの使用方法が説明されています。これらのページはコマンドラインから入手でき、リリース固有の_コマンドリファレンス_でも公開されています。

ONTAPのコマンドラインで、コマンドを使用し man *command_name`*て、指定したコマンドのマニュアルページを表示します。コマンド名を指定しない場合は、マニュアルページインデックスが表示されます。コマンドを使用すると、コマンド自体に関する情報を表示 `man`できます `man man。マニュアルページを終了するには、と入力し`q`ます。

ご使用のリリースで使用できる管理者レベルおよびアドバンスレベルのONTAPコマンドについては、を参照して使用しているONTAP 9のバージョンに対応するコマンドリファレンスください。

著作権に関する情報

Copyright © 2024 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および/または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。